

## おわりに

脳のなかに異常のない頭痛を考える場合に、大切なことは「国際頭痛分類」の診断基準では、緊張型頭痛、片頭痛、三叉神経・自律神経性頭痛（ここに群発頭痛が含まれます）、その他の一次性頭痛に分類されています<sup>12)</sup>、が専門家は、これらをすべて別個に切り離して考えるべきとされます。

しかし、このような脳のなかに異常のない頭痛とは、一体、どのようなものなのかを根源的に考えることによって、これらをすべて一括して捉えるべきものです。そして、西洋医学でいう、「健康」か「病気」かといった論点ではなく、東洋医学的に病気とは診断されないが、健康でもない。いわば、“半健康・半病気”の状態に身体はある、半健康・半病気の状態を、東洋医学では病気になる一歩手前だとして、「未病（みびょう）」<sup>26)</sup>と言っています。

このように慢性頭痛とは、未病という観点から捉えるべき状態と考えるべきです。この未病とは、本来、生活習慣の問題点から引き起こされ、ここから「病気」へと進展するものと東洋医学では考えられています。

ということは、“脳のなかに異常のない”**「慢性頭痛（一次性頭痛）」**は、東洋医学でいう”未病”の段階にあり、すなわち健康と病気の間位置しており、この”未病”は本来、生活習慣の問題点から引き起こされ、ここから**「病気」**としての**「慢性緊張型頭痛」・「慢性片頭痛」**へと進展するものです。

ですから**慢性頭痛とは”未病”の段階にあり、「健康的な生活」を送ることを阻害する生活習慣に根本的な原因があります。**

人間が**「健康的な生活」を送る**ためには、ミトコンドリアが重要な役割を果たしています。

先述の”未病”とは、絶対的な健康ではなく、私たちの身体のバランスがどこか歪んでいるのです。

これは「ホメオスターシスの乱れ（自然治癒力の低下）」を意味しています。

「健康的な生活」とは、生まれつき体に備わっている「生体リズム」に沿っ

た生活ということを意味しています。

この「生体のリズム」は「ホメオスターシス（自然治癒力）」によって維持され、「体内時計」により刻まれ、「体内時計」は「ミトコンドリア」・「セロトニン神経系」により制御されています<sup>4)</sup>、<sup>5)</sup>。

「ホメオスターシス・恒常性（自然治癒力）」には自律神経、内分泌系、免疫系の3つの働きが深く関わっており、3つの相関関係は「ホメオスターシスの三角」と呼ばれます。

ホメオスターシスはストレスなどに大きく影響されます。例えば自律神経を失調させるストレスは内分泌を乱し、免疫力も低下させてしまいます。

この3つのバランスが崩れてホメオスターシス機能が保てない状態になると、“頭痛”を肇とするいろいろな”体の不調”が現れることとなります。

このように頭痛とは、ホメオスターシス（自然治癒力）の論点から考えていくべきものです。

すなわち、生物学の法則（自然の摂理のこと）・・・ミトコンドリア、自然治癒力（ホメオスターシス）に基づいて論ずるのが原則です。

専門家は、慢性頭痛を論じる場合には、その”ルール”として、世界で最も権威ある国際頭痛学会が作成した「国際頭痛分類 第3版β版」から論ずるべきとされますが、この基準で述べる弊害は諄いばかりに説明してきました。

結局のところ、このような「国際頭痛分類 第3版β版」で論じてきたことが、これまでの臨床頭痛学をダメにしてきました。

二度と労働者を資本家階級に奉仕させるための道具にしてはならないということですが。

「新たな臨床頭痛学」は、生物学の法則（自然の摂理のこと）・・・ミトコンドリア、自然治癒力（ホメオスターシス）に基づいて論ずるのが原則です。